RD13解説と全訳例

(1) The word blarney comes from the Blarnery Stone, a legendary block of bluestone built into the wall of Blarney Castle, in southern Ireland.

The word comes blarney

from the Blarney Stone

=a legendary block of bluestone

|由来する

built into the wall of Blarney Castle in southern Ireland

- ・the word と *blarney* とは同格関係。同格は「A、すなわちB」や「BというA」で訳出する。ここでは「ブラーニーという言葉」で良い。
 ・A come from Bで「AはBから来た」から「AはBに由来する」の意味が生まれた。
 ・the Blarnery Stone と a legendary lock も同格。
 ・a legendary block of bluestone の of は「構成要素の of」で「BでできたA」。
 ・a block of bluestone built into the wall ~の built は過去分詞で、ET型の「過去分詞から始まる形容詞」

と同じ。

□英語で書かれた本 a book written in English □城壁に組み込まれた青い石の塊 a block of bluestone <mark>built</mark> into the wall of a castle ・a block of Aで「一塊のA」または「Aの塊」。 【全訳例】ブラーニーという言葉はブラーニー石に由来する。それは伝説に出てくる青い石の塊で、南アイルランドに あるブラーニー城の城壁に組み込まれていた。 あるブラー

(2) The stone is said to give the power of eloquence — the ability to speak persuasively — to anyone who

The stone (is said to) give the power of eloquence =the ability to speak persuasively 何を

to anyone who kisses it

・be said to ~で「~だと言われている」の意味。「be ~ to」は助動詞型の1つ。 ・power of A で「Aに関する力」。「Bの持つ力」の場合もあるので注意。 △コミュニケーション(に関する)力

the power of communication

△ブランド(が持つ)力 power of brand

・ — (ダッシュ) で挟まれた部分がが同格と同じように直前の名詞 the power of eloquence を説明している。 【全訳例】その石は、それにキスする人には誰にでも、人に訴える力、すなわち巧みに人を説得する能力を授けると言 われている。

(3)Indeed, one Irishman associated with the stone and particularly known for his eloquence was Cormac Teige MacCarthy, Lord of *Blarney* Castle when Elizabeth I was Queen of England.

<u>Indeed</u> Cormac Teige MacCarthy one Irishman was =Lord of Blarney Castle when Elizabeth I was Queen of England = ssociated with the stone [who was] $\left\{ \begin{array}{c} aos \\ and \\ 1 \end{array} \right\}$

known for his eloquence one Irishman associated with ~の過去分詞 associated も、ET型の「過去分詞から始まる形容詞」。who was を補うと分かりやすい。

△英語で書かれた本

a book [which is] written in English 【全訳例】ブラーニー石と関係があって、その弁才で有名な1人のアイルランド人がコーマック・テイジ・マカーシーで、彼はエリザベスー世統治時代のイギリスの、ブラーニー城の城主だった。

(4)According to one story, in 1602 Sir George Carew, the Queen's representative in Ireland, demanded that MacCarthy surrender his castle and lands to the English army as a sign of his loyalty to the Queen.

According to one story

Sir George Carew that 文 demanded <u>=the Queen's representative in Ireland</u> 要求した 何を

<文>

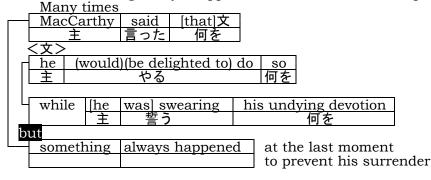
MacCarthy	[should] surrender	his and lands	
主	明け渡す	何を	

to the English army

as a sign of his loyalty to the Queen

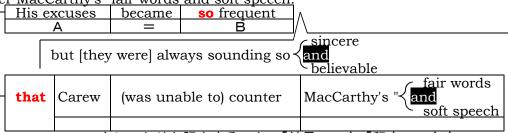
・Sir George Carew と the Queen's representative とは同格。
・demand(要求する)は「何を」を表す that 文の中では助動詞「当たり前だの should」を使うんだけど、
省略されることも多い。だから、主節の動詞は demanded(要求した)という過去形なのに、MacCarthy の
動作は surrender の原形になっているのに注意。
・as は「資格の as」で「印として」
【全訳例】ある物語によると、1602年、アイルランドでエリザベス女王の代理人をやっていたジョージ・カール卿
は、女王への忠誠の証として自分の城と土地を英国軍に明け渡すように、マカーシーに要求した。

(5)Many times MacCarthy said he would be delighted to do so while swearing his undying devotion to the Queen, but something always happened at the last moment to prevent his surrender.



be delighted to ~で「喜んで~する」とか「~できて光栄に思う」。これも「be ~ to」の助動詞型。
while he was swearing の「A=」が省略されていることに注意。ルール 1 6 の省略のパターン参照のこと。
to prevent his surrender の to は「結果の to」。実は、to be、to find、never to、only to 以外にも「結果の to」があることに注意。
【全訳例】マカーシーは永久の忠誠を誓いながら、何度も喜んで明け渡しますと何度も言ったのだが、最後の最後でいつも何か事件が起こって、(その結果) 城と領地を放棄せずに済んだのだ。

(6)His excuses became so frequent, but always sounding so sincere and believable, that Carew was unable to counter MacCarthy's "fair words and soft speech



- ・so ~ that をしっかりと訳出すること。「結果」でも「程度」でも良い。
- コンマーコンマの間の but 以下は挿入。it is や there is は良く省略される。ここでは複数形の they were を補って読む。
- counter Aで「Aに対抗する」とか「Aに反論する」。いわゆる「カウンター攻撃をする」の意味。

【全訳例】マカーシー卿はとても頻繁に言い訳をするようになったのだが、それはいつも誠実で信用が出来るように思われたので、(その結果)カールは彼の美辞麗句と物腰の柔らかい話し方に対抗することが出来なかった。

(7)Once, when MacCarthy's latest excuses were reported to the Queen, she is said to have exclaimed, "Oh, more Blarney talk!'

	Once	;								
Н	when	1	MacCarthy's latest excuses		were	reported	te	o the Queen		
				Ā			=	Bされた		
١.										_
Ч	she	(is said to)	have e	xclaimed	"O	h,"mor	e Blarney	talk	
	主		•	叫んだ				何を		

- ・once は、経験の「一度、一回」の意味と、時間の「あるとき、かつて」の意味とを区別するのが肝要。ここでは後者。「あるとき」が右で具体化されて when S+Vになっている。これも、左のことが右で説明されるという英語の特徴。

・「more +名詞」は、それにうんざりしている時に使う。
・be said to は前にも出てきた「助動詞型」。「〜だと言われている」は助動詞+原形だけど、「〜だったと言われている」は助動詞+ have +過去分詞になることに注意。
【全訳例】あるとき、マカーシー卿が口にしたばかりの言い訳が女王に報告された際、女王は「あ´ーまたブラーニーの言い訳ね!」と叫んだと言われている。

(8) This seems to be the first use of the word, as we use it today, to describe such charmingly misleading talk.

	This	(seems to) be	<the first="" use="">of<the word=""></the></the>	as we use it today	
	Α	, <u> </u>	<i>1</i> B	Š	
to describe such charmingly misleading talk					

·This は前文の内容全部を指す

- ・ Inis は前又の内容生命を指す。
 ・ seem to ~で「~の様だ」の意味の助動詞。「~ to」も助動詞型の1つ。
 ・ as we use it todayの as は「様態の as」で接続詞。「私たちが今日その言葉を使っているように」。コンマーコンマに挟まれているので、挿入的なオマケの説明。
 ・ to describe ~の to はET型の1つで「不定詞から始まる形容詞」。

⊿今日読む本

a book to read today

△表現するための最初の使用

the first use to describe

・charmingly misleading talk は「うっとりさせるように人を惑わせる話し方」が直訳。このままでは変なので、「うれしい誤解を招くようなことを言う」と意訳した。でも、こんな和訳は出来なくても構わない。 【全訳例】今日私たちが使っているように、うれしい誤解を招くようなことを言うために Blarney という言葉を使用したのは、これが最初だった様だ。